

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペットなどにかかわる拡大損害を示します。)

図記号の意味と例

	⓪は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⓪の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

警告

 禁止	交流100V以外では使用しない。 火災・感電の原因になります。	 禁止	不安定な場所や熱に弱い敷物の上で使わない。 けがや火災の原因になります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものをのせたり、挟み込んだりしない。 火災・感電の原因になります。		業務用として使用しない。調理目的以外の使いかたはしない。 本製品は家庭用として設計・製造されています。業務用としての使用は、絶対しないでください。
	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。本体の下へ電源コードを通さない。 感電・ショート・発火の原因になります。		異常時(こげ臭い、発煙など)は電源プラグを抜き、使用しない。 火災・感電の原因になります。
	子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使用しない、保管しない。 けがやけど・感電の原因になります。		お手入れの際は住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使用しない。 ひび割れによるケガや引火による火災、変色・変形・感電・故障の原因になります。
	本体のすき間にピンや針金などの金属物、異物を入れない。 感電や異常動作してけがの原因になります。		調理中、本体の取っ手と操作部、蒸気フタ以外には触れない。調理中に移動させない。 やけどの原因になります。
	本製品を踏んだり、落としたり、たたいたり、強い力・大きな衝撃を与えない。与えてしまった場合は、使用しない。 故障するだけでなく、感電やけが、火災などの原因になります。	 指示	電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 差し込みが中途半端では、感電・ショート・発火の原因になります。
	カーテンなどの可燃物の近くで使わない。燃えやすいものの近くで使用しない。 けが・故障、火災、変色や変形の原因になります。		定格15A以上のコンセントを単独で使う。 他の器具と併用すると異常発熱して発火の原因になります。

警告

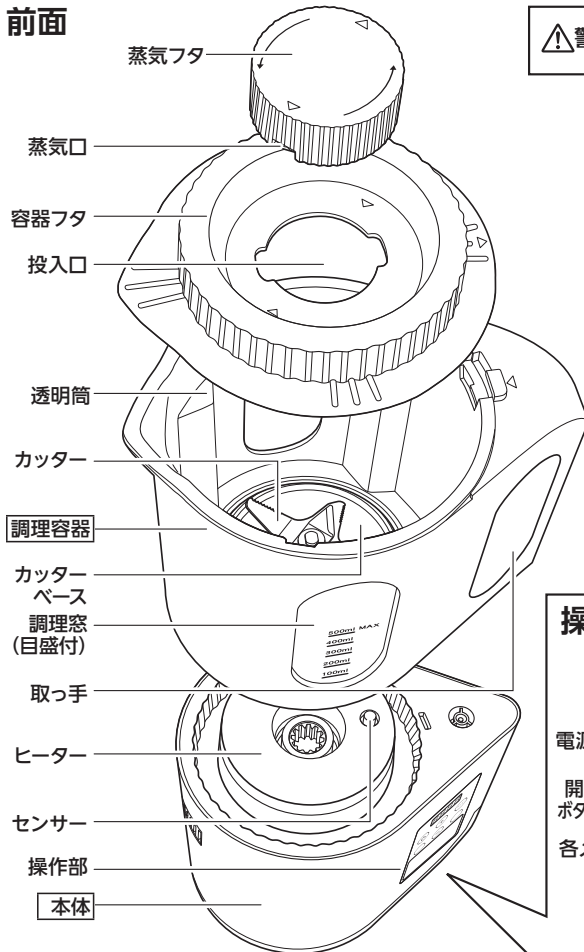
 指示	電源プラグの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合はふきとる。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。	 ぬれ手禁止	ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電や火災、故障の原因になります。
	使用時は本製品から離れないようにする。 火災の原因になります。	 水ぬれ禁止	本製品を水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。 ショート・感電の原因になります。
 プラグを抜く	使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。 絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因になります。	 禁止	ヒーター部分を汚れたまま使用しない。 汚れが発火して火災の原因になります。
	お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電・火災・けがの原因になります。		調理中は調理容器や容器フタに触れない。 やけどの原因になります。
 分解禁止	調理物が発煙、発火したときは、すぐに電源プラグを抜く。 火災の原因になります。本体に影響があったときは、ドウシヤお客様相談室にご相談ください。		食材以外を調理容器に入れない。 故障の原因になります。
	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 感電・ショート・発火の原因になります。修理は販売店にご相談ください。		ヒーターが熱いまま、連続して調理しない。 焦げの発生や、故障の原因になります。

注意

 禁止	加熱調理をしたあとしばらくは、本体に触れない。 やけどの原因になります。	 指示	加熱調理時、容器フタを開けるときは充分注意する。 調理物の水分が蒸気として出てくるため、やけどの原因になります。
	使用中は容器フタをはずさない。 調理物が飛び出すなど、けが、やけどの原因になります。		購入後、初めて使用するときは十分お手入れをしてから使用する。
	金属製の箸などの器具は使用しない。 調理容器に悪影響を及ぼし、内部キズつきなどの原因になります。		本体のすき間に食材の油などが入らないように注意する。 発煙・発火の原因になります。
 指示	電源プラグをコンセントから抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って抜く。 感電・ショートの原因になります。		本体のすき間などに調理くずが残らないよう、こまめにお手入れする。 感電・発火の原因になります。
	お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、本体が冷めてから行なう。 やけど・火災の原因になります。		壁や他のもの（特に可燃物）との間隔を十分にあけて設置する。 本体や物が変形・変質したり、火災の原因になります。
	使用するたびにお手入れをする。 お手入れをしないでおくと、パッキンが傷んだり、故障の原因になります。		

各部の名称とはたらき

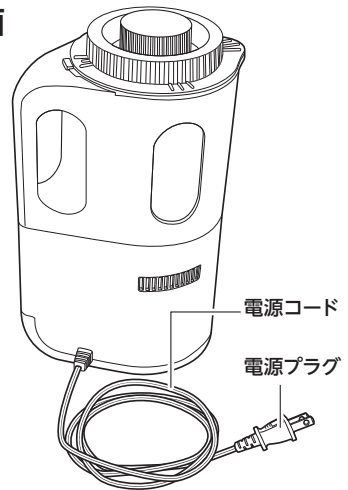
前面



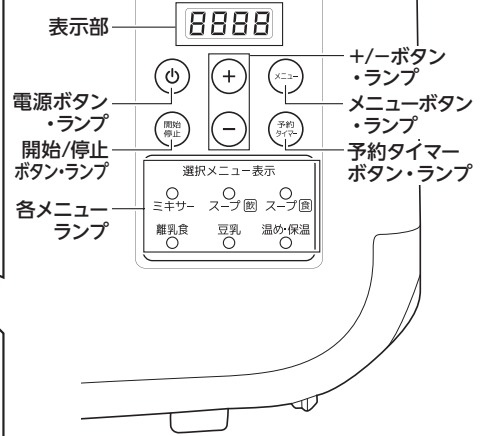
警告

電源コードは、束ねたまま使用しない。
発煙・発火の原因になります。

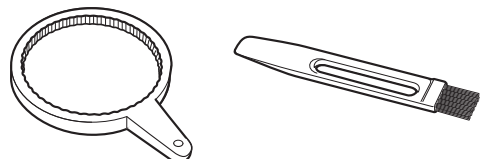
背面



操作部



付属品



オープナー×1

お手入れブラシ×1

オリジナルレシピ×1

使用前の準備

使用前の準備

分解や組み立てのしかたは、「お手入れと保存」(12ページ)をご覧ください。

1. 調理容器を分解して洗う

本体以外は丸洗いでできます。初めてご使用になる
ときや、長期間使用しなかったときは、使用する
前に調理容器を分解して、洗ってください。

2. 十分乾燥させて、組み立てる

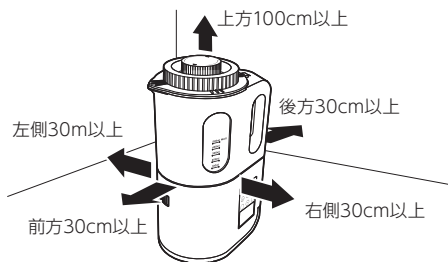
調理容器を十分に乾燥させ、乾燥後には元通りに
組み立ててください。

3. 本体を正しく設置する

本体は熱や振動に強い、安定した水平な場所に設
置してください。

- 近くに可燃物がないことを確認し、可燃物がある場合は移動させてからご使用ください。
- 調理物が飛び散ることがあるので、周囲には大切な文書や精密機器などを置かないでください。
- 内蔵モーターが熱を持つため、熱に強い場所に置く必要があります。
- モーターの回転により、振動が起るため、振動に弱いものの近くには置かないでください。

本体は壁や周囲から適当な距離を保ってください



次のような場所では使用しないでください。

- カーテンや壁、家具など、可燃物の近く。
- 熱に弱い敷物の上。
- 傷つきやすい家具の上、など。

⚠ 注意

- 本体を移動させるときは、必ず本体の下、調理容器を移動させるときは、取っ手を持つ。
- 水平で安定した場所で使用する。
- 子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところで使用しない。
- 本体に調理容器を正しく取り付けるまでは電源プラグをコンセントに差し込まない。

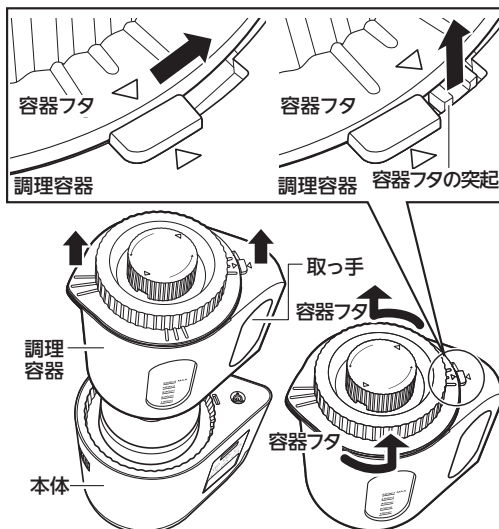
正しい使いかた

基本的な使いかた

温かい調理メニューの使いかたです(スープ^①、スー
プ^②、離乳食、豆乳)。

各メニューに使用する食材などについては付属の
レシピ集をご覧ください。

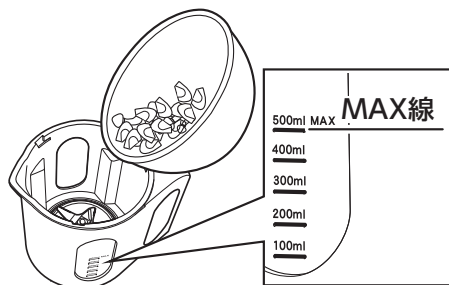
1. 調理容器を取りはずし、容器フタをはずす



正しい使いかた (つづき)

2. 食材を入れる

- 入れる食材については、レシピ集をご覧ください。
- 調理できる最大容量は500mlまでです。
- 食材を入れるときは、MAX線を超えないようにしてください。



調理しにくい食材

以下の食材は、カッターにからまったりして、調理を中断させてしまいます。異常振動や飛び出したりすることがあります。本機と別に調理して最後に一緒にするなど工夫が必要です。

- キムチなどのつけもの
- 長いままのワカメなど
- コンニャクなど弾力のあるもの
- ブロックのままの肉類、長いままのベーコンなど

3. 食材を入れたら、調理容器を本体に正しく取り付ける

右図のように、取っ手の下にある調理容器凸部を本体凹部にあわせて、本体に取り付けてください。

- 正しく取り付けられると、本体の周囲と調理容器の周囲の形状が一致します。
- 正しく取り付けられていないと、電源が入りません。
- 正しく取り付けても多少調理容器が浮いている感じがする場合、右図にある、カッターベースの凸部と本体の凹部が一致していないことがあります。カッターベースの位置も確認ください。

4. 容器フタを正しく取り付ける

容器フタを回転させます。

調理容器・容器フタを正しく取り付けられないと、電源が入りません。

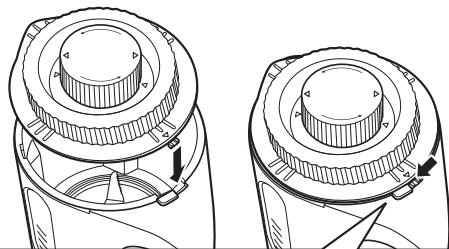
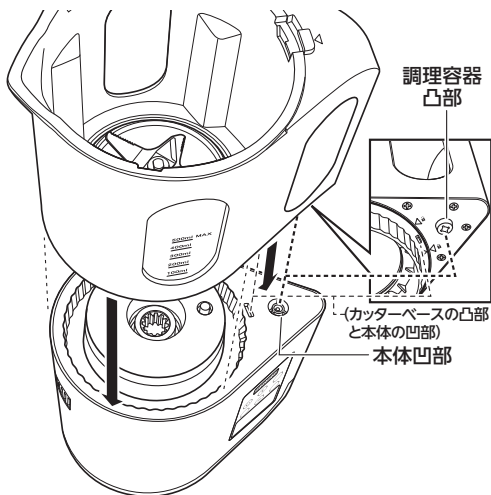
5. 電源プラグをコンセントに差し込む

電源ランプが点滅します。

※ 電源ランプが点滅しないときは、調理容器や容器フタが正しく取り付けられていない可能性があります。あるので、再度確認ください。



- 食材を最大容量の線 (MAX線) 以上入れない。
- MAX線までの1/3以上液体・食材などを入れる。
熱くなりすぎて調理がうまくいかないことがあります (調理内容により1/3を超えなくても調理できるものもあります)。
- 熱湯や他で調理した直後の食材など熱い食材を直接入れない。
- 食材には、水や牛乳などの水分を必ず加える。
- 粘りが出る食材 (小麦粉など) は使用しない。
本体に大きな負担をかけ、故障の原因となります。
- 大きな氷や市販のかたい氷は使用しない。
カッターの破損の原因となります。
- 食材以外のものを入れない。



6. 電源ボタンを押し、メニューボタンを押して調理するメニューを選択する

スープ^①、スープ^②、離乳食、豆乳から選択します。

メニューの特徴

メニュー	かくはん時間	調理時間(目安)*
スープ ^②	長	約22分～
スープ ^①	短	約20分～
離乳食	長	約35分～
豆乳	長	約20分～

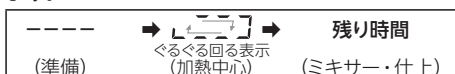
* 周囲の環境、温度、水温、食材、分量によって時間は異なります。

※メニュー設定後、約60秒以内に開始/停止ボタンを押してください。時間が過ぎると、電源が切れた状態のスタンバイ状態に戻ります。そのときは電源ボタンを押して、再度メニューボタンでメニューを選択してください。

7. 開始/停止ボタンを押して調理を開始する

調理中は、選択したメニューランプと開始/停止ボタンが点滅します。

調理の進行具合によって表示部の表示が変わります。



調理の最終段階まで進むと残り時間のカウントダウンが始まります(メニューによってカウントダウンが始まる時間が違います)。

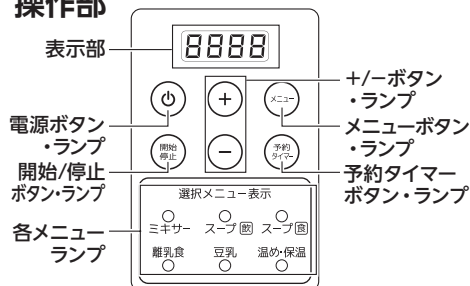
・ミキサー調理中に大きく揺れる場合、本体(取っ手)を押さえてください。

※途中で調理をやめるときは、開始/停止ボタンを押してください。時間が過ぎて本体が熱くなった状態で途中停止すると、すぐに再開はできません(ERO2が点灯するため、本体を冷ましてから運転を再開させてください)。ただし「ミキサー」機能は使用できます。



調理中に調理容器を持ち上げたり、容器フタのロックを解除はしない。
安全装置が動作して電源が「切」になり、調理が最初からやりなおし(調理内容によっては調理中の材料が使えなくなる)になるので、注意してください(やりなおしをする場合でも、途中停止同様、「ミキサー」「温め・保温」機能以外はすぐに再開はできません)。

操作部



- ・蒸気口から出る蒸気に注意する。
- ・調理容器を取り付けるときはヒーターの表面や周囲に料理カスがこびりついていないか確認する。
汚れなどがついたときはきれいにふき取ってください。
- ・調理容器内部を傷めないために次のことを必ず守る。
 - ・金属製の箸やへらなどは使用しない。
 - ・空だきはしない。
 - ・みがき粉や金属たわしなどは使用しない。
 - ・プレートの表面および裏面に汚れが残ったまま放置しない(腐食の原因になります。必ずきれいにお手入れをしてください)。
- ・続けて調理するとき、30分以上間隔をあける。
連続して調理をすると、故障の原因になります。モーター部分が熱を持つため、十分冷却してから使用します。
- ・調理するとき、大きな音がするので、環境に気をつける。
調理するときには大きな音がしますので、周囲に十分配慮してください。
- ・調理中、保温中は本体は熱くなっているので、取っ手部分・蒸気フタ部分以外触れない。
本体を押さえるときは、取っ手部分・蒸気フタ部分を押さえてください。
- ・調理中に調理容器を持ち上げたり、容器フタのロックを解除しない。
電源が「切」になり、最初から調理をやりなおしすることになります。

8. 調理が完了するとブザーが5回鳴る

調理直後から保温が始まります(「保温機能」10ページ参照)。保温をやめるときは、開始/停止ボタンを押して保温を止めてください。

9. 調理容器を取りはずし、調理したものを他の容器に移す

調理直後の本体ヒーター部分や調理容器の底部分はとても熱くなっているため、十分に注意してください。

正しい使いかた (つづき)

調理前の注意点

- ・記載している分量、調理方法をまもり、正しく調理してください。
ふきこぼれや、製品の故障、材料こげつきの原因になります。
- ・調理容器のカッターベースやカッターの裏面に、調理カスや汚れを付着したまま使用しないでください。
こげつきや異臭の原因になります。
- ・材料に皮、芯、へた、種があれば取り除いて調理してください。
- ・材料は3cm以下のサイズにカットしてください。
- ・材料の種類、大きさ、カット方法により、加熱ムラになったり粉碎されないことがあります。
- ・乾燥大豆を使用した豆乳調理をするときは、大豆を6時間以上水に浸してもどしてから調理してください。
- ・食材と水などは比率1:1以上にして比率に注意して入れてください。

代表的なメニュー

豆乳の作りかた

「大豆」と「水」を用意するだけで「豆乳」を作ることができます

1 材料	(2杯分) 乾燥大豆：約 50 g、水：約 350 ml
2 準備	材料の乾燥大豆を適温 (10～20℃) にて、6時間以上、水にひたしておく。 材料 (大豆・水) をすべて調理容器に入れてください。
3 メニュー選択	「豆乳」メニューを選択し、開始/停止ボタンを押す
4 調理時間	約20分～
5 調理後の処理	なめらかにするため、本機で調理後、(編目の細かい) ざるにて濾し、さらに目の細かい茶濾しなどで濾して、豆乳とおからを分離してください。
6 お手入れ	調理容器内のおからは、時間が経過すると、固まって、お手入れしにくくなりますので、早めにお手入れしてください。

離乳食・にんじんとかぼちゃのペーストの作りかた

「にんじん」「かぼちゃ」などの材料を小さく切っただけで、ペースト状の離乳食を作ることができます

1 材料	にんじん：50 g、かぼちゃ：150 g、水：150 ml
2 準備	にんじんは、皮をむき、1cm角に切って用意する。 かぼちゃも、皮をむき、種を取り除き、1cm角に切って用意する。 材料 (にんじん・かぼちゃ・水) をすべて調理容器に入れてください。
3 メニュー選択	「離乳食」メニューを選択し、開始/停止ボタンを押す
4 調理時間	約35分～
5 調理後の処理	
6 お手入れ	早めにお手入れしてください。

コーンポタージュスープの作りかた

スープ^食メニューでは、材料の形状を残し、食べるスープに調理することができます（約10秒程度カッターが回ります）。

スープ^食メニューでは、材料を細かくして形状を残さないスープ（約2分程度カッターが回ります）ができます。

調理したあと、さらにミキサーモードでお好みで材料を細かくすることができます。

ここでは、スープ^食メニューで調理する、コーンのポタージュスープの作りかたを挙げます（他のスープの作りかたなどは、レシピ集をご覧ください）。

1 材料	(2人分)コーン:150g、玉ねぎ:50g、コンソメ:顆粒(小さじ1)、塩・こしょう:少々、水:200ml、生クリーム:50ml、パセリ(みじん切り):適量、クルトン:適量
2 準備	・コーン(とうもろこし)の実を削ぎ落として150g用意し、玉ねぎは皮をむいて2cm角切りにしてください。 ・材料のうち、パセリとクルトン以外の材料を調理容器に入れてください。
3 メニュー選択	「スープ ^食 」メニューを選択し、開始/停止ボタンを押す
4 調理時間	約22分～
5 調理後の処理	生クリームを加えて、濃度を調節し、食器に入れてから、仕上げにクルトンを入れ、パセリを散らしてください。
6 お手入れ	早めにお手入れしてください。

調理中の注意点

運転中は調理方法によって蒸気が多く出たり、急に水がふきこぼれる可能性があります。容器フタを開けたり、本体に触れたり、持ち上げたりしないでください。

安全装置がはたらき、運転を停止します。また本体が熱いのでケガややけどの原因になります。安全装置が働いた場合、本体が冷めるまで「ミキサー」機能以外は運転開始しません（安全装置がはたらいた場合、エラー警告表示 ER01 または ER02 が表示されます）。

調理後の注意点

- ・粉末調味料(塩、コショウなど)、液体調味料(醤油、ミルク、サラダ油など)は、できあがってから加えてください。
- ・できあがった料理の具材をさらに細かくしたい場合は、ミキサー運転で再度かくはんしながら調節してください。
- ・材料の種類、大きさ、カット方法により、加熱ムラになったり粉碎されないことがあります。
- ・豆乳調理後に目が細かいザルで濾したあと、再度茶濾しや濾し布などを使用するとよりなめらかに仕上がります。
- ・使用後はカッターに触れないよう注意してすぐにお手入れしてください。臭い残りの原因になります。

正しい使いかた (つづき)

蒸気フタの取り付け・取りはずし

蒸気フタの取りはずし

蒸気フタを時計回り方向に回し、引き上げて取りはずしてください。

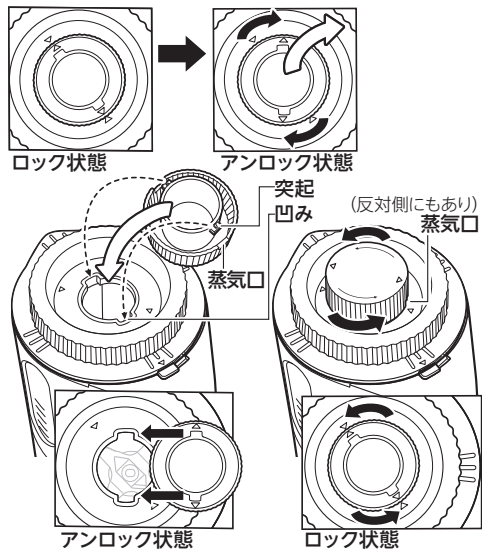
蒸気フタの取り付け

蒸気フタの裏側にある突起を、容器フタの凹みに合わせて取り付け、反時計回り方向に回して、取り付けてください。

※容器フタにある▲マークは、ロック位置を示しています。



- ミキサー調理中 (かくはん中) は、蒸気フタを取りはずさない。内容物が吹き出す原因になります。
- 調理中の蒸気口に注意する。やけどの原因になります。



予約タイマー機能

調理を開始する時間を設定することができます。

1. 電源ボタンを押して電源を入れ、メニューボタンを押して調理するメニューを選択する

予約タイマーは、メニュー (スープ^①、スープ^②、離乳食、豆乳) のみで、ミキサー機能、温め・保温機能には使用できません。

2. 予約タイマーボタンを押し、+/-ボタンで時間を設定する

30分単位で2時間以上、最大12時間まで設定できます。

• +/-ボタンの長押しでも時間の設定ができます。

3. 開始/停止ボタンを押してタイマーを開始させる

設定した時間後に調理が開始します。



- 調理するとき、大きな音がするので、環境に気をつける。
(特に予約タイマーの起動が睡眠中などの場合) 素材や環境にもよりますが、調理するときには大きな音がしますので、周囲に十分配慮してください。
- タイマー調理中、近くにいない場合は、調理の蒸気や調理音などに配慮する。
- タイマー調理で、食材が傷んだり、腐敗ないように(特に夏場など)高温多湿、長時間放置を避ける。

保温機能

調理してできあがったものを自動的に保温する機能です。温め・保温ランプが点灯し、60分まで保温することができます。

• 調理終了時から60分まで時間を表示します。

※ミキサー機能では保温しません。

温め・保温が完了するとブザーが5回鳴る

電源ランプが点滅します。

電源ボタンを押して電源を切ってください。



- 長時間の保温の使用はしない。
特に夏場は腐敗が進む原因になります。
- 本機で調理したもの以外保温しない。

温め機能の使いかた

調理してできあがったものを再び温める機能です。温め・保温ランプが点灯します。



- 温め機能は冷えたものに対して行なう。
温かいものに対して行なうと、料理によっては噴出する原因になります。

1. 電源ボタンを押して電源を入れ、メニューボタンを押して温め・保温を選択する

2. 開始/停止ボタンを押して「温め」を開始させる

時間とともに温度が上がるため、あまり温度を上げたくない調理の場合は、様子を見て開始/停止ボタンを押して温め機能を停止させてください。

3. 温め機能が終了すると、ブザーが5回鳴る

調理直後から保温が始まります（「保温機能」10ページ参照）。保温をやめるときは、開始/停止ボタンを押して保温を止めてください。



注意 温め機能を長時間使用はしない。

料理の水分がなくなり、焦げ付きの原因になります。

ミキサー機能の使いかた

本機をミキサーとして使用します。

1. 電源ボタンを押して電源を入れる

2. 調理容器に、食材が入っていることを確認し、メニューボタンを押して「ミキサー」メニューを選択する

3. +/-ボタンを押して時間を設定する

5秒～3分の間で、5秒単位で時間を設定することができます。

4. 開始/停止ボタンを押して調理を開始させる

残り時間が表示されます。

- ミキサー調理中は内容物によって大きく揺れることがあります。

※途中で調理をやめるときは、開始/停止ボタンを押してください。

※突然運転が停止した場合は、「モーターが突然止まったときは」(16ページ)をお読みください。

5. 調理が完了するとブザーが5回鳴る

電源ボタンを押して電源を切ってください



警告 連続の使用はしない。

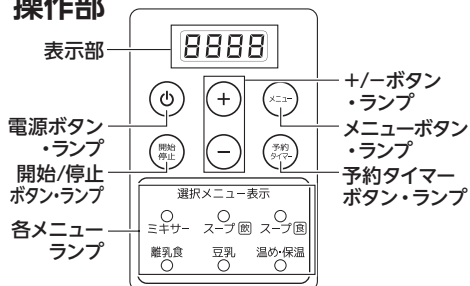
モーターが故障する原因になります（最大3分使用したら5～10分程度間隔をあけてモーターを休ませてください）。



注意 調理するとき、大きな音がするので、環境に気をつける。

周囲に十分配慮してください。

操作部



ミキサー機能を使う前に

ミキサー機能を使用するときは以下のようにしてください。

材料	入れる材料は、1～3cm角に切ってください
入れる順序	「やわらかいもの」から「かたいもの」の順で入れてください。 液体 → やわらかいもの → かたいもの
調理できないもの	- 肉（ミンチ） - 魚介類 - 粘り気の強いもの とうろ芋・小麦粉 - 水分の少ないもの - かたいもの - 乾物、市販のかたい氷・大型の氷

- 水分が少ないものであっても、液体を入れることで調理できるようになる場合があります。
- 通常調理できる食材でも、量が多いと調理が難しくなることがあります。うまく動作しないときは、量を減らすなどして対応してください。

お手入れと保存



お手入れと保存は、必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、本体（ヒーター）が十分に冷めてから行なう。
感電・火災・けが・やけどの原因になります。

調理容器の分解とお手入れ

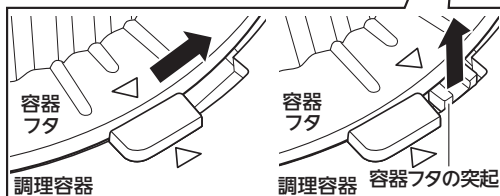
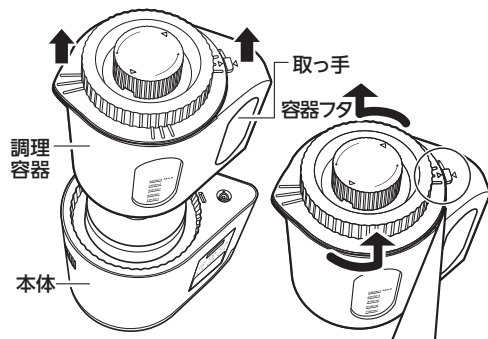
本機は、本体以外は、分解してお手入れすることができます。正しく分解してお手入れしてください。

調理容器の分解

1. 調理容器の取っ手を持って本体から取りはずす

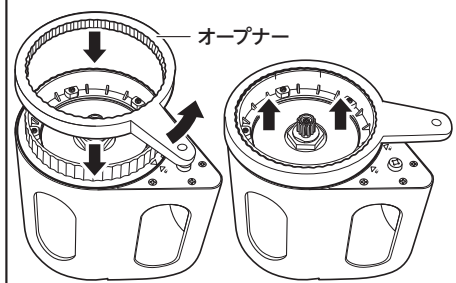
2. 容器フタを右図のように回転させてははずす

容器フタを反時計方向に回転させて、容器フタの突起が出てきて、容器フタを取りはずすことができます。



3. 調理容器のカッターベースを付属のオープナーで取りはずす

カッターベースを反時計方向に回転させて取りはずしてください。

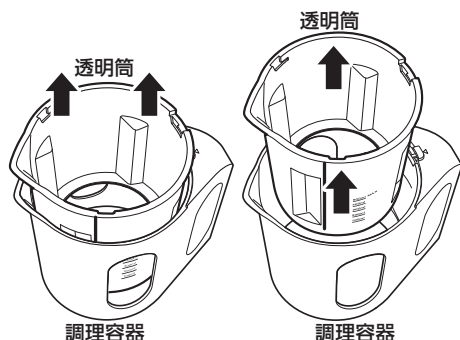
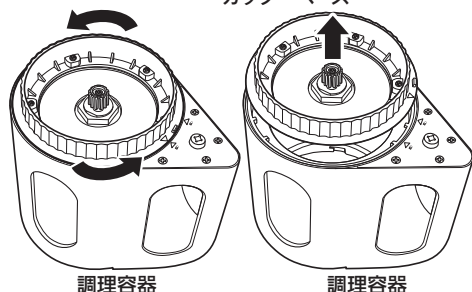


カッターに直接触れない。
けがの原因になります。

4. 調理容器の透明筒を取りはずす

カッターベースを取りはずすと、透明筒も上部から取りはずすことができますようになります。

(裏側にカッターがあるため注意)
カッターベース



5. パッキンを取りはずす

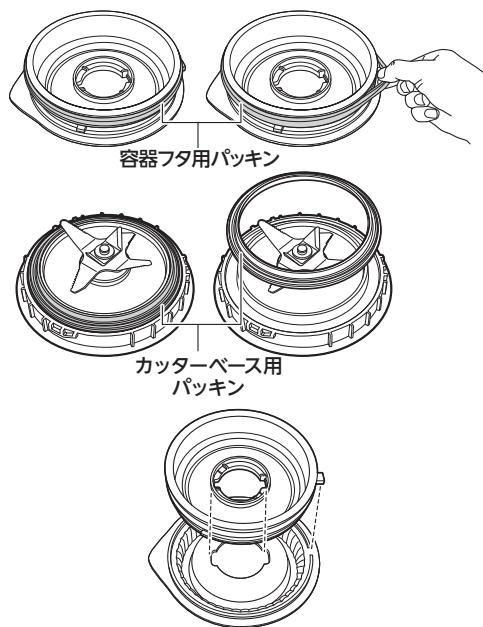
カッターベース部分と、容器フタ部分に、パッキンが取り付けられています。

取りはずしてお手入れしてください。

⚠注意

色の濃い野菜やカレーなどの調理後、容器フタ用パッキンやカッターベース用パッキンに色移りすることがあります。

商品の品質には問題はありません。そのままご使用ください。



容器フタは分解してお手入れすることができます
組み立てるときは、右図のように内側の穴の形状と
外側の突起と凹みの場所を一致させてください。

調理容器のお手入れ

⚠警告

・お手入れと保存は、必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、本体（ヒーター）が十分に冷めてから行なう。

感電・火災・けが・やけどの原因になります。

・お手入れの際は住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使用しない。
ひび割れによるケガや引火による火災、変色・変形・感電・故障の原因になります。

⚠注意

・金属たわし、クレンザーなどを使用しない。

・カッターに直接触れない。

けがの原因になります。

・オレンジ・ライムなど柑橘系成分の入った食器用洗剤を使用しない。

変色・変形させる原因になります。

・本体以外の調理容器、オープナーはそれぞれ丸洗いをすることができます。

・使用後、本体から取りはずし、分解して水またはぬるま湯、食器用中性洗剤を含ませたスポンジで洗い、よくすすいだあと、乾いた布で水気を拭き取ってください。

・十分乾燥させてから、組み立ててください。

・組み立てずにそのまま放置すると、紛失やパッキンが早く傷む原因になります。

※ カッターベースやパッキン、透明筒のすき間は付属のお手入れブラシを使用してください。

交換用パッキン

取りはずしたパッキンに傷んでいる箇所が見つかった場合や、調理中に水蒸気や水分のもれなどがある場合、パッキンを交換してください。

交換用のパーツは別売しています。

商品名	交換用パッキン 容器フタ用パッキン
商品名	交換用パッキン カッターベース用パッキン
商品名	オープナー
商品名	お手入れブラシ

ドウシシャのパーツ購入はドウシシャマルシェのご利用が便利です。

ドウシシャのパーツ購入は **ドウシシャマルシェ** 
DOSHISHA Marche 
ONLINE STORE 公式オンラインストアで
<https://www.doshisha-marche.jp/>



ドウシシャマルシェがご利用できない場合は、お買い上げの販売店またはドウシシャお客様相談室（⇒裏表紙）へお問い合わせください。

お手入れと保存 (つづき)

調理容器の組み立て

お手入れしたあと、十分乾燥させた上で組み立てて使用してください。

調理容器の組み立て

1. パッキンを取り付ける

右図のように、容器フタ用パッキン、カッターベース用パッキンをそれぞれ凹みに合わせて、溝のない面を内側にして取り付けてください。

- ・取り付けが終わったら、すき間がないか、確認してください。
- ・容器フタ用パッキン・カッターベース用パッキンを取りはずし・取り付けを行なったあとに蒸気や水分がもれたりする場合、もう一度、取り付けなおしてみてください。



注意 カッターベース用パッキン・容器フタ用パッキンは必ずしもそのまま使用しないやけど、けが、事故の原因になります。

2. 調理容器に透明筒を取り付ける

右図のように調理容器の内側と透明筒の外側にあるガイドを組み合わせて、すき間なく取り付けてください。

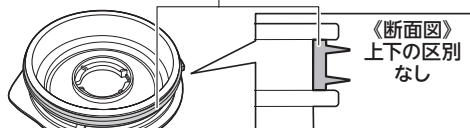
- ・すき間なく取り付けられていないと、カッターベースを正しく取り付けることができません。

3. 調理容器にカッターベースを付属のオープナーを使用して取り付ける

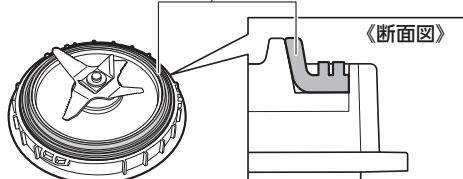
右図のように、調理容器とカッターベースにある▲マークを探し、調理容器の右側の▲マークに合わせてカッターベースを取り付け、カッターベースを時計回りに回して固定させます。

- ・カッターベースの▲マークを調理容器の左側の▲マークまで、回してください。
- ・ゴミなどが調理容器とカッターベースの間に挟まっていると、正しく取り付けることができません。
- ・手順2での透明筒が正しく取り付けられていないと、カッターベースが固定されません。うまくいかないときは、手順2の透明筒の取り付けを再度行なってください。

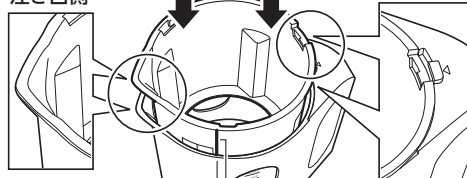
容器フタ用パッキン



カッターベース用パッキン



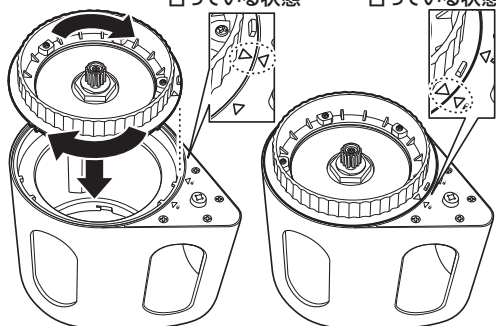
注ぎ口側 容器フタのロック部分



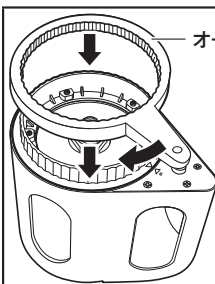
ガイド(凹)
(調理容器・内側)
ガイド(凸)
(透明筒・外側)

▲マークが右側に
合っている状態

▲マークが左側に
合っている状態



オープナー

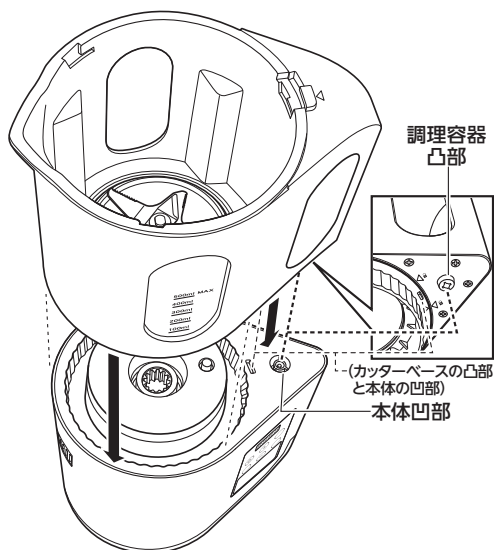


カッターベースは、付属のオープナーを使用して回してください。

4. 調理容器を本体に取り付ける

右図のように、取っ手の下にある調理容器凸部を本体凹部にあわせて、本体に取り付けてください。

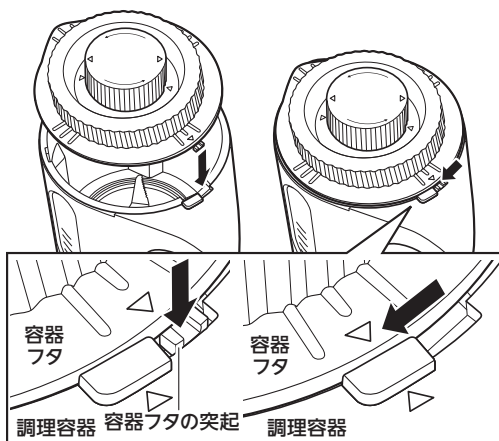
- 正しく取り付けられると、本体の周囲と調理容器の周囲の形状が一致します。
- 正しく取り付けられていないと、電源が入りません。
- 正しく取り付けても多少調理容器が浮いている感じがする場合、右図にある、カッターベースの凸部と本体の凹部が一致していないことがあります。カッターベースの位置も確認ください。



5. 容器フタの突起を右図のように調理容器に取り付け、回転させてロックする

容器フタの突起を取っ手側にある凹みに入れて取り付け、容器フタを回転させてロックしてください。

- ロックしない状態では、電源が入りません。



蒸気フタの取り付け・取りはずしについては、10ページ参照。

お手入れと保存 (つづき)

本体のお手入れ

⚠ 警告

- ・お手入れと保存は、必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、本体（ヒーター）が十分に冷めたことを確認する。
感電・火災・けが・やけどの原因になります。
- ・お手入れの際は住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使用しない。
ひび割れによるケガや引火による火災、変色・変形・感電・故障の原因になります。
- ・本体を水にぬらさない、水洗いしない。

⚠ 注意

- ・金属たわし、クレンザーなどを使用しない。
- ・オレンジ・ライムなど柑橘系成分の入った食器用洗剤を使用しない。
変色・変形させる原因になります。

- ・本体、特にヒーター部分は水にぬらさないでください。感電・故障の原因になります。
- ・本体は、よく絞ったふきんやキッチンペーパーでふき取ってください。
- ・ヒーター部分の汚れがひどいときは、食器用中性洗剤を入れた水またはぬるま湯にひたしてよく絞ったふきんなどでふき取ってください。こびりついたまま使用すると、故障の原因となります。

保存のしかた

- ・お手入れのあと、よく乾燥させてください。
- ・ホコリが付かないようにポリ袋などをかぶせ、お買い上げの商品が入っていた箱などに入れて、湿気のない場所に保存してください。

モーターが突然止まったときは

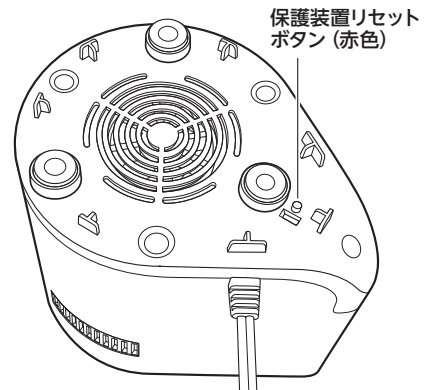
《モーター保護装置について》

運転中にモーターに負担がかかったとき（特にミキサー機能使用時）、保護装置がはたらき、運転が停止することがあります。

保護装置の復帰手順

1. 電源を切り、コンセントから電源プラグを抜く
2. 調理容器を本体からはずす
3. 調理容器内を調べ、
 - ・モーターに負担をかけている食材を取り除く。
 - ・量が多い場合は量を減らす。
4. 10秒以上時間が経過したあと、本体のカッターベースにある「保護装置リセットボタン」を押す。
カチッと手応えがあるまで押してください。
5. 再度、調理容器を本体の上に正しくのせて、電源プラグを差し込み、調理をする。
(調理途中の食材は、調理状態によっては再度調理しても想定していたように完成させることができないことがあります)

上記を行なっても、ミキサー運転ができない場合は、再度電源プラグをコンセントから抜いて、30分以上時間をおき、本体を冷ましてください。



修理・サービスを依頼する前に



警告 修理技術者以外の人とは分解したり修理をしない。

「故障かな?」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
電源ランプが点灯しない	電源プラグがコンセントに差し込まれていない	電源プラグをしっかり差し込む
	家庭の電源ブレーカーが落ちている・ヒューズが切れている	使用している電化製品を減らして、ブレーカーを戻す・新しいヒューズを取り付ける
	調理容器・容器フタが正しく取り付けられていない	本体に調理容器をのせる部分と、容器フタのロック状態を確認する
	長時間連続で使用続けている(安全装置が働いて使用できなくなっている)	電源プラグをコンセントからはずし、調理容器を本体からはずして30分以上時間をおく
カッターの回転が突然停止した	モーターに負担がかかった	「モーターが突然止まったときは」(16ページ)を見て順番に対応する
異臭がする	ヒーターなどに汚れが付いたまま調理している	ヒーターなどの汚れをなくす
	少ない分量で調理して焦げなどができている	正しい分量で調理する
	長時間連続で使用している	電源プラグをコンセントからはずし、調理容器を本体からはずして30分以上時間をおく
ふきこぼれる	食材が多い(正しい分量で使用していない)	- 食材を減らす - 正しい分量に調節する
	冷凍されたまま使用している(解凍されて容量が増えた)	- 十分解凍してから使用する - 正しい分量に調節する
カッターが空回りする	- 食材の場所が片寄っている - 食材の大きさが大きすぎる	- 食材を適切な大きさにして、中心に寄せるようにする - 正しい分量に調節する
使用中カチカチと音がする	故障ではありません(ヒーターの熱膨張により発生する音です)	そのままお使いください
容器フタ用パッキンやカッターベース用パッキンに色が付いた	色の濃い野菜やカレーなどの調理後、色移りすることがあります	商品の品質には問題はありませんので、そのままお使いください
調理中、表示部に[ER01]もしくは[ER02]と表示される	空だき状態になったり、食材の分量が足りない状態になって、安全装置が働いた	本体を十分に冷まし、食材の分量や大きさを調節し、安全装置が働いた原因を解決してから再度調理する

長年ご使用の場合はよく点検を

このような症状はありませんか?

- 電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- 電源コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- こげ臭い匂いがする。
- その他の異常・故障がある。

このような症状の時は、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店またはドウシシャお客様相談室に点検をご相談ください。

MEMO

MEMO

製品についてのご相談に関しては…

ドウシシャお客様相談室

☎0120-104-481

【受付時間】9:00～17:00（祝日以外の月～金曜日）

ドウシシャ福井家電カスタマーセンター

〒915-0801 福井県越前市家久町41-1

※ 商品名、品番をご確認のうえ、お電話をいただきますようお願いいたします。

※ お電話をいただいたときにお話いただく情報は、お客様へのアフターサービスにおいて利用させていただきますので、ご了承ください。

商品に関する Q&A

お客様サポートセンター

<http://www.doshisha.co.jp/support/faq/appliance.html>



ドウシシャのパーツ購入は

ドウシシャマルシェ

DOSHISHA Marché
ONLINE STORE

公式オンラインストアで

<https://www.doshisha-marche.jp/>

